# 般若心経

川崎ゆきお

「最近どうしてますか」

「元気ですよ」

「それは何より、で、最近は何を」

「般若心経です」

「ほう」

「仏の教えです」

「ほう」

「色即是空、空即是色です」

「何ですか、それは」

「色々なものは空です。しかし、空そのものが実は色々なものです。否定し、肯定する」

「ああ、はい。それで」

「これで、仏の心を学びます」

「それは遅すぎるのか、今で丁度なのか、よく分かりませんが、もうお年でしょ」

「そうです」

「だったら、もう遅いんじゃないですか」

「え」

「そういう般若ですか、それは知恵でしょ。そういった知恵は現役時代に使った方が、よかったのでは。今、お仕事は」

「何も」

「趣味の活動とか、ボランティアとかは」

「何も」

「じゃ、役に立てようがないですねえ」

「そう言えば」

「それに、もう遅いですよ」

「しかし、人格を磨いて」

「何処で使うのですか。もう引退されていて、その立場にはないのでしょ」

「そうですが」

「まあ、現役時代でも、仏の顔も二度三度が四度か五度ほど増える程度でしょうねえ」

「若い頃は、一度も仏顔などしたことがなかったので、これから仏顔顔をやろうと」

「仏顔と仏頂面とは違うのですね。しかし、怖い顔の仏さんもいますよ」

「いやいや、落ち着きます。仏の道はいいですぞ。仏道です」

「まあ、そういう支柱は必要でしょうねえ。しかしストレスになりますよ」

「そのストレス、苦を減らすのが、仏道です」

「そう書かれてましたか」

「さあ」

「悪いことは言いません。急に仏心を出すと、その反動が来ます。我慢出来なくなりますから。それが溜りに溜まって、逆のことをやらかしてしまいますよ」

「そうですか」

「それに」

「知恵の無いものが、知恵知恵と言っても、仕方がないでしょ」

「その知恵を観自在菩薩から学んでいる最中です」

「お経に書かれているのですね」

「そうです。般若心経の250文字ほどの中に」

「じゃ、誰でも知恵を得ることができるじゃないですか」

「書かれていることを実践できれば」

「まあ、無理をなさらず」

「私は昔は仏敵でした」

「信長ですか」

「違います」

「般若のように怖い顔をしていました」

「般若心経の般若と、お面の般若は別なんでしょうねえ」

「般若のお百も」

「何ですかそれは」

「毒婦です」

「悪い方のキャラの方が豊かで楽しそうですよ」

「いや、以前角の生えたような鬼のような人間でしたので、反省し、仏になります」

「そんな簡単に。この前、ヨガをやってませんでしたか」

「あれは、体に悪い。内蔵がねじれますよ。それに筋を何度違えて、往生しましたよ。それに肉を食べないようにしていたら、どんどん元気がなくなっていって、あれは苦行です」

「じゃ、お経のほうが」

「そりゃそうですよ。楽、楽、極楽ですよ」

「じゃ、もう極楽往生したようなものですか」

「ハハハ、はいはい」

了